

太田川

安芸太田は太田川水系の中流から上流に位置し、この地域の住民は何百年もの間、太田の豊富な資源を利用してきました。三段峡を流れる柴木川と温井ダムのある滝山川は、どちらも太田川の支流です。

太田川の分水界は廿日市市の冠山にあります。水系には多数の支流が流れ込み、やがて広島の中積デルタに注がれます。その後、川はデルタを横切っていくつかの支流に枝分かれし、最終的に瀬戸内海で終わります。

太田川による水運の機会により、安芸太田の東部で鉄の生産の中心であった加計地区は江戸時代初期（1603～1868）に商業拠点として繁栄しました。太田川は鉄だけでなく、炭、米、木材の輸送にも利用されていましたが、やがて車、道路、鉄道の発達とともに地元の鉄産業が衰退したため、第二次世界大戦前に水運が停止し、太田は静かになりました。

しかし、太田川は今でも安芸太田になくてはならない水源で、広島市を含む広い地域に水道水を供給しています。また、水力発電所を持ち、豊富な川の生物たちの生活も支えています。春から秋に釣り人たちを呼び寄せるアユやアマゴもその一部です。